



## 「企画研究」報告書

2022年 7月 31日

## 1. 基本情報

研究代表者 氏名: 武田将明	所属部局: 総合文化研究科
題目(和文・英文)	
(和文) 現代作家アーカイブの構築と発信 (英文) Creation and Distribution of the Archive of Contemporary Japanese Writers	
概要	
<p>本企画は、現代の日本語文学を代表する作家の生の声を記録に残し、国内外の多くの人々に現代日本文学の意義を伝えることを目的として、現役の作家へ定期的に公開インタビューを実施し、その音声・映像をアーカイブとして残すものである。</p> <p>この「現代作家アーカイブ」という企画自体は、2015年に飯田橋文学会と東京大学の研究・教育機関(附属図書館、UTCP等)の連携で実施していたが、2018年8月から、HMCの助成を受けることで、安定した企画・運営が実施可能となった。2018-2019年度には、HMCのほか、飯田橋文学会、UTCP(西原育英文化事業団助成プロジェクト)、文部科学省科学研究費助成金基盤研究B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」の協力を得た。その後、新型コロナウイルスの感染拡大により、対面での公開インタビューの実施が困難となり、2020年度には活動を休止、これに伴い、当初の研究期間を1年延長して2021年度にインタビューをオンラインで同時配信する方針に切り替えて再開した。再開時には、上記の協力機関・助成金のうち、基盤研究Bは期間を終了していた一方、新たに東大の研究機関であるEAAの協力を得ることができた。飯田橋文学会、UTCPには継続して協力していただいた。なお、関連書籍の販売や宣伝において、東京大学生協駒場書籍部からも全面的な支援をいただいたことを付記しておく。</p> <p>結果として、9名の作家にインタビューを行い、貴重なアーカイブを残すことができた。学内からも多くの学生・教職員が対面やオンラインで視聴し、現代文学の創作現場を知るための機会を提供することができた。また、HMCの企画研究「大江健三郎氏寄託資料に関する基礎的研究」とは、同じ現代作家のアーカイブ企画という趣旨から、また研究協力者も重なっていることから、一定程度の情報共有を行なった。</p>	

## 2. 研究分担者

研究分担者	所属機関・職位
中島 隆博	東洋文化研究所・教授
研究分担者	所属機関・職位
阿部 公彦	人文社会系研究科・教授
研究分担者	所属機関・職位
佐藤 麻貴(2018年7月から2021年3月まで)	総合文化研究科・特任准教授(2022年3月退職)
研究分担者	所属機関・職位
梶谷 真司(2019年4月から2021年6月まで)	総合文化研究科・教授
研究分担者	所属機関・職位
岩下 弘史(2021年4月から2022年3月まで)	HMC・特任研究員(2022年3月退職)
研究分担者	所属機関・職位
中里 晋三(2022年4月から2022年6月まで)	HMC・特任研究員

### 3. 研究成果

#### 【書籍】

##### 単著

- 武田将明、『100分 de 名著 デフォー「ペストの記憶」』、NHK 出版、2020 年。  
NHK のテレビ番組「100分 de 名著」のテキストとして執筆したもの。ダニエル・デフォー『ペストの記憶』における記憶の問題を論じる際、本企画研究で得られた知見を参照した。
- 阿部公彦、『病んだ言葉 癒やす言葉 生きる言葉』、青土社、2021 年。  
病と言葉という軸を立てて考察した一連の論考をまとめた書籍。現代作家が同時代の文脈の中で、どのように言葉と付き合っているかを論じる。
- 中島隆博、『残響の中国哲学——言語と政治』増補新装版、東京大学出版会、2022 年。  
第12章「尹東柱はわれらの同時代人」、第13章が「声の乱調——中国と女性」(魯迅論)にて、近代の東アジア文学を論じる際、本企画研究で得られた知見を参照した。

##### 共著

- 武田将明ほか編、『東京大学駒場スタイル』 東京大学教養学部編、東京大学出版会、2019 年。  
教養学部創設 70 周年を記念した出版物。駒場キャンパスでの研究・教育活動を紹介する中で、本企画研究の紹介を行った。
- 武田将明、中島隆博ほか著、『TOKYO COLLEGE Booklet Series 3 連続シンポジウム「コロナ危機を越えて」③価値』、東京大学国際高等研究所東京カレッジ、2020 年。  
中島隆博(司会)、小野塚知二、宇野重規とのシンポジウムの記録。武田はダニエル・デフォー『ペストの記憶』における記憶の問題を論じる際、本企画研究で得られた知見を参照した。
- 武田将明ほか、『私たちはどのような世界を想像すべきか』 東京大学東アジア藝文書院・編、トランスビュー、2021 年。  
武田は「小説と人間——Gulliver's Travels を読む」を寄稿。スウィフト『ガリヴァー旅行記』を論じる中で、本企画において得られた、作家と同時代との関係をめぐる知見を活用した。
- 平野啓一郎、阿部公彦、ロバート キャンベル、鴻巣友季子、田中慎弥、中島京子、飯田橋文学会著『名場面であらう日本文学 60 選』、徳間書店、2021 年。  
作家たちの「名著」の一節をとりあげ、その向こうに見える背景や作品像の全体を照らし出すという試み。各著者が10篇ずつ担当した。

#### 【論文】

##### 単著・査読あり

- Nakajima, Takahiro. "Takeuchi Yoshimi and Civilization." *Frontiers of Literary Studies in China*. Vol.15 Issue 1. March 2021. Beijing: Higher Education Press, pp. 32-47.  
竹内好論。東アジア文学を考察する際、本企画研究で得られた知見を参照した。

##### 単著・査読なし

- 武田将明、「コロナウイルス時代にデフォー『ペストの記憶』が教えてくれること」、『現代ビジネス』、2020 年 5 月 1 日、(ウェブ雑誌) <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/72266>。  
ダニエル・デフォー『ペストの記憶』を翻訳した経験を基に、新型コロナウイルス感染症の蔓延下における社会を考察した論文。疫病など災害の記憶の問題を論じる際、本企画研究で得られた知見を参照した。
- 阿部公彦、「事務に狂う人々第1回——漱石と大日本事務帝国」、『群像』6月号。  
事務能力の魅惑と奥行きを探求する連載の第一回では夏目漱石をとりあげた。

#### 【口頭発表】

- 武田将明、「世界文学としての東アジア文学」(使用言語は英語および中国語) 張旭東、鈴木正久とのシンポジウム。東京大学東アジア藝文書院、東洋文化研究所、2019 年 7 月 26 日。  
近現代の東アジア文学について、世界文学論の文脈で議論したもの。武田は現代日本文学・文化における言語・民族のハイブリッド性について、本企画で得られた知見を参照しつつ論じた。

- Takeda, Masaaki. “World Literature as Japanese Literature: How Novelists, Critics, and Translators Adapted Western Ideas.” Co-Chair and Presenter in the symposium with Catharine Stimpson (Co-Chair), Masatsugu Ono, Koji Toko, Akihiro Kubo, Kohei Kuwada (Presenters), and Robyn Creswell, Nina Coryetz, Zakir Paul, Sonia Werner, Yoon Jeong Oh (Discussants). My research paper was titled: “‘I know not what to call this’: Looking for Crusonian Moments in Modern Japanese Literature.” ICCT/NYU Winter Institute. NYU Global Center for Academic & Spiritual Life (New York, USA), 7 January 2020.

世界文学がいかに近現代の日本文学に需要されたのか、されなかったのかについて議論したシンポジウム。武田は日本近代文学と十八世紀イギリス文学との共通点について、本企画で得られた知見を参照して論じた。

- 武田将明、中島隆博(司会)ほか、「日本文学を構想する」木村朗子、平野啓一郎、福嶋亮大、村上克尚との共同討議。京都フォーラム、リーガロイヤルホテル大阪、2020年1月18日、19日。  
東日本大震災以降の日本文学について、二日間に渡り討議した。武田は研究報告「Great Japanese Novelを求めて？」において、本企画で得られた知見を活用して、現代作家の阿部和重の長篇三部作を詳しく論じた。
- 武田将明、中島隆博(司会)ほか、「連続シンポジウム コロナ危機を越えて(3) 価値」小野塚知二、宇野重規とのシンポジウム。東京カレッジ、Zoomによるオンライン開催、2020年6月25日、<https://www.youtube.com/watch?v=00AfKJmSk>。  
武田は研究報告「コロナウイルス時代にデフォー『ペストの記憶』を読む」で、疫病などの災害と記憶の問題を論じる際、本企画研究で得られた知見を参照した。上記の同名共著は本シンポジウムの記録。
- 武田将明、「物語の広がるところ——小説とマンガの交差点」、Readin' Writin' (東京)、2021年9月25日。  
大串尚代『立ちどまらない少女たち 〈少女マンガ〉的想像力のゆくえ』刊行を記念した大串とのトークイベント。対面とオンラインでの開催。武田は戦後少女マンガにおけるアメリカ文化の影響を考察する際、本企画で得られた知見を活用した。

## 【その他】

### インタビュー

(以下は、本企画の主たる内容となる、現代作家へのインタビューである。いずれもプロの手で撮影され、川上弘美・吉増剛造以外のインタビューは、飯田橋文学会のウェブサイトで限定公開されている。編集作業中の川上・吉増インタビューを含む全インタビューについて、準備が整い次第、一般公開する予定である)

- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第17回 高橋睦郎。(聞き手)阿部公彦、(主催)HMC、UTCP(西原育英文化事業団助成プロジェクト)、文部科学省科学研究費助成金基盤研究B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」、飯田橋文学会、(会場・日時)東京大学本郷キャンパス法文1号館115教室、2018年8月22日。
- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第18回 平田オリザ。(聞き手)河合祥一郎、(主催)HMC、UTCP(西原育英文化事業団助成プロジェクト)、文部科学省科学研究費助成金基盤研究B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」、飯田橋文学会、(会場・日時)東京大学駒場キャンパス18号館ホール、2018年10月23日。
- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第19回 池澤夏樹。(聞き手)柳原孝敦、(主催)HMC、UTCP(西原育英文化事業団助成プロジェクト)、文部科学省科学研究費助成金基盤研究B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」、飯田橋文学会、(会場・日時)東京大学本郷キャンパス法文2号館2番大教室、2019年3月25日。
- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第20回 吉本ばなな。(聞き手)岩川ありさ、(主催)HMC、UTCP(西原育英文化事業団助成プロジェクト)、文部科学省科学研究費助成金基盤研究B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」、飯田橋文学会、(会場・日時)東京大学駒場キャンパス18号館ホール、2019年6月4日。
- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第21回 李恢成。(聞き手)金ヨロン、(主催)HMC、UTCP(西原育英文化事業団助成プロジェクト)、文部科学省科学研究費助成金基盤研究B「世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究」、飯田橋文学会、(会場・日時)東京大学駒場キャンパス18号館ホール、2019年10月24日。

- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第 22 回 松浦寿輝。(聞き手)武田将明、(主催)HMC、UTCP、EAA、飯田橋文学会、(会場・日時)Zoom webinar による同時配信、2021 年 4 月 12 日。
- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第 23 回 町田康。(聞き手)矢野利裕、(主催)HMC、UTCP、EAA、飯田橋文学会、(会場・日時)Zoom webinar による同時配信、2021 年 11 月 19 日。
- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第 24 回 川上弘美。(聞き手)木村朗子、(主催)HMC、UTCP、EAA、飯田橋文学会、(会場・日時)Zoom webinar による同時配信、2022 年 3 月 9 日。
- 現代作家アーカイヴ 文学インタビュー第 25 回 吉増剛造。(聞き手)阿部公彦、(主催)HMC、UTCP、EAA、飯田橋文学会、(会場・日時)Zoom webinar による同時配信、2022 年 6 月 27 日。

## 書評・季評

(以下の書評・季評はいずれも現代日本文学に関するものであり、本企画研究での知見を活用した)

### 武田将明著

- 李琴峰『独り舞』(講談社)『週刊新潮』2018 年 6 月 28 日号。
- 大前粟生『回転草』(書肆侃侃房)『週刊新潮』2018 年 9 月 6 日号。
- 多和田葉子『穴あきエフの初恋祭り』(文藝春秋)『週刊新潮』2018 年 11 月 29 日号。
- 「今年の収穫 生き直すことへの共感——平野啓一郎『ある男』など」『共同通信』2018 年 12 月 30 日朝刊。
- 村田喜代子『エリザベスの友達』(新潮社)『週刊新潮』2019 年 1 月 17 日号。
- 赤坂真理『箱の中の天皇』(河出書房新社)『週刊新潮』2019 年 3 月 14 日号。
- 「文芸季評 2019」『読売新聞』2019 年 3 月 11 日／6 月 17 日／9 月 9 日／12 月 9 日夕刊。
- 平野啓一郎『「カッコいい」とは何か』(講談社現代新書)『週刊新潮』2019 年 9 月 19 日号。
- 真梨幸子『三匹の子豚』(講談社)『週刊新潮』2019 年 10 月 31 日号。
- 阿部和重『オーガ(ニ)ズム』(文藝春秋)『週刊新潮』2019 年 12 月 5 日号。
- 「文芸季評 2020」『読売新聞』2020 年 3 月 9 日／6 月 8 日／9 月 14 日／12 月 5 日夕刊。
- 木村友祐『幼な子の聖戦』(集英社)『週刊新潮』2020 年 4 月 2 日号。
- 柴崎友香『百年と一日』(筑摩書房)『週刊新潮』2020 年 9 月 17 日号。
- 「変容する想像力」(金子薫『道化むさぼる揚羽の夢の』(新潮社)書評)『新潮』2021 年 9 月号。
- 「ジュリアンを待ちながら」(川本直『ジュリアン・バトラーの真実の生涯』(河出書房新社)書評)『新潮』2021 年 11 月号。
- 小川公代『ケアの倫理とエンパワメント』(講談社)『共同通信』2021 年 10 月 30 日朝刊。

### 中島隆博著

- 「一族の物語」(平野啓一郎『ある男』(文藝春秋)書評)『UP』558(2019 年 4 月)号。

### シンポジウム司会(「口頭発表」と重複するものは省略)

- 武田将明、「現代フィクションの可能性」久保昭博、山本貴光、松永伸司によるシンポジウムの司会。科学研究費基盤研究(B) 世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究(研究代表者:武田将明)、東京大学駒場キャンパス、2019 年 11 月 1 日。  
フィクション論研究の久保氏、ジャンル横断的な批評家の山本氏、デジタルゲーム研究の松永氏を迎え、フィクション論と現代文化の関係を議論した。現代文化に関わる本シンポジウムを構想する際、本企画の知見を応用した。
- 武田将明、「東アジアにおける世界文学の可能性」曹泳日、李琴峰、日比嘉高、村上陽子、小沢自然、斎藤真理子、鈴木将久によるシンポジウムの司会。科学研究費基盤研究(B) 世界文学の時代におけるフィクションの役割に関する総合的研究(研究代表者:武田将明)、東京大学駒場キャンパス、2020 年 2 月 11 日。  
東アジアという単位で現代文学を再考することで、日本語文学や韓国語文学、中国語文学の世界文学的可能性を明らかにしようと試みたシンポジウム。構想時に本企画の知見を応用した。

### テレビ番組

- 武田将明、「100 分 de 名著 デフォー『ペストの記憶』」伊集院光、安部みちことのテレビ番組。NHK 教育テレビ、2020 年 9 月 7 日、14 日、21 日、28 日、22 時 25 分-50 分。  
ダニエル・デフォー『ペストの記憶』における記憶の問題を論じる際、本企画研究で得られた知見を参照した。

#### 4. 今後の研究の展望

途中、コロナ禍による1年以上の中断を経験し、研究期間を1年延長したが、幸いにして当初の予定どおり9名の現代を代表する日本語作家の記録を残すことができた。今後は、HMC内の企画研究「大江健三郎氏寄託資料に関する基礎的研究」との協力関係をさらに発展させ、現代文学をアーカイヴとして保存するだけでなく保存した資料をいかに活用するかについても知見を深めたい。その他、学外(国内外)の作家アーカイヴや、関西学院大学の久保昭博教授を中心とする科学研究費基盤研究(B)「近代におけるフィクションの社会的機能についての領域横断的研究」(本アーカイヴの代表者である武田が研究分担者を務める)との連携を新たに図り、これらの研究機関との共同シンポジウムも実施したい。

成果還元に関しては、「研究成果」欄にも記載したが、これまでのアーカイヴ動画を一般の視聴者がアクセスしやすい形で公開するための準備を進め、なるべく早い段階で公開を実現し、多くの人々に創作の現場の雰囲気を与えたとともに、専門的な研究にも役立つようにしたい。

また、コロナ禍の前には事前読書会を実施するだけでなく、作家との交流の時間も設けることで、本学の学生を中心とした人々の知的関心や交流に貢献していたが、現在はそれが難しくなっている。感染状況を見ながら対面での企画実施も検討するだけでなく、オンラインで実施する場合も、インタビューの前後に何らかの交流の機会を設けるなど、知的なインタラクションの可能性を模索したい。